

当院は、県立尼崎病院と県立塚口病院が統合して、平成27年7月に県立尼崎総合医療センターとして新たにスタートしました。阪神地域における急性期医療の拠点病院として、高度専門医療を提供しています。



私は平成26年4月に採用された2年目の薬剤師です。今回は私が担当している消化器外科病棟での業務と認知症・せん妄サポートチーム（DDST）についてご紹介します。

◆ 病棟薬剤業務

当院では、各病棟に専任薬剤師を配置し、病棟薬剤業務を行っています。消化器外科病棟の入院患者さんの多くはがん患者さんであり、がんの手術や化学療法の導入を目的に入院されます。周術期においては、薬剤師は抗血小板薬・抗凝固薬や糖尿病薬の管理に特に注意を払う必要があります。また、化学療法導入目的で入院される患者さんに対しては、薬剤指導や副作用のモニタリングが薬剤師としての重要な業務になっています。日々、患者さんの状態や病状を見ながら医師や看護師などの病棟スタッフと話し合い、個々の患者さんに最適な薬剤の選択、投与方法、投与量や投与速度の設定を行っています。

◆ 認知症・せん妄サポートチーム（DDST）

認知症・せん妄サポートチーム（DDST）は、7月1日の当院の発足に伴って本格始動した、医師・薬剤師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士からなる多職種連携チームです。週に1回院内ラウンドを行い、各病棟から依頼のあった認知症患者さんやせん妄患者さんについて、適切な予防や初期介入、ケアについて提案を行っています。薬剤師は、使用薬剤の副作用や注意点、薬物動態、薬物相互作用についての情報提供、せん妄誘発薬の検索や治療に用いる薬剤の提案を積極的に行っています。

認知症・せん妄サポートチーム



兵庫県立病院には総合病院と専門病院が各5つずつあり、それぞれに多彩な特色があります。様々な病院の中で、薬剤師としての専門性を活かし、成長できる環境があります！

みなさんも県職員の一員となり、
私たちと一緒に県立病院で働いてみませんか♪



職員の声 加古川医療センター 薬剤部



当センターは26科を有し、超急性期の3次救急医療や1類・2類感染症から、急性期・慢性期のがん医療や糖尿病をはじめとする生活習慣病に対し、疾病予防教育から終末期医療までの総合的医療を提供する病院です。多職種が協力して治療を行う「チーム医療」が拡がり、薬剤師は薬の専門家として患者さんをサポートする役割を担っています。私は外科・乳腺外科の病棟担当薬剤師として日々奮闘しています。今回は担当病棟に多い「がん治療」に関わる薬剤師のお仕事を紹介します！

① レジメン（抗がん剤治療の計画書）のチェック

抗がん剤の投与量や投与方法は複雑で、副作用の予防や症状軽減のための薬剤を組み合わせで使います。それぞれの薬の投与量や期間、手順を示す「レジメン」と呼ばれる治療計画書に沿って治療を行います。薬剤師は新たに申請されたレジメンや既存のレジメンを管理し、実際に投与されるレジメンが患者さんにとって適切かどうかをチェックしています。

② 抗がん剤の調製

全ての外来・入院患者さんの抗がん剤の調製を年間約4000件行っています。抗がん剤は薬剤師が処方せんの内容（抗がん剤の種類・投与量・投与方法・薬をお休みする期間等）をチェックした後に安全キャビネット内で調製します。



③ 薬の説明や副作用の確認、医師への処方提案

新たにごがん治療を始める方や薬の種類を変更する方に服薬指導を行います。抗がん剤を投与されることに不安を感じている患者さんも多いと思います。担当医からだけでなく、薬剤師から副作用などの具体的な説明を受けることで、治療中の日常生活をより具体的にイメージすることができます。当センターは入院患者さんだけでなく、外来患者さんに対して年間約400件の外来薬剤指導を行っています。そこで得られた情報は医師や看護師など多職種へと情報提供しています。吐き気やしびれといった副作用対策の薬が必要か、薬の量は適切かなどをチェックし、必要があれば具体的な処方提案をしています。

④ チームカンファレンス

多職種の医療スタッフと情報を共有するために私もチームカンファレンスに参加しました。乳腺外科チームや緩和ケアチームなどそれぞれの分野に担当の薬剤師が参加しています。薬のことだけでなく、患者背景を深く知ることで、一人ひとりの患者さんにより適切な薬物療法を提案しています。

今回はがん治療に関わる私たち薬剤師のお仕事を紹介しましたが、他にも感染制御や栄養管理、救急領域など多くのチーム医療に参加し薬剤師の視点に立った適切な薬物療法を推進しています。



私は兵庫県立病院薬剤師レジデント2年の経験を経て、今年度入職しました。兵庫県には総合病院だけでなく、高度専門病院が多数あります。県立病院には薬剤師がチーム医療に貢献できる知識と技能を習得するための教育研修体制が整っています。また、県職員の薬剤師は県庁や健康福祉事務所（保健所）で勤務することもあり、様々な経験を積むことができると思います。是非みなさんも私たちと一緒に自分の可能性を広げてみませんか？

職員の声



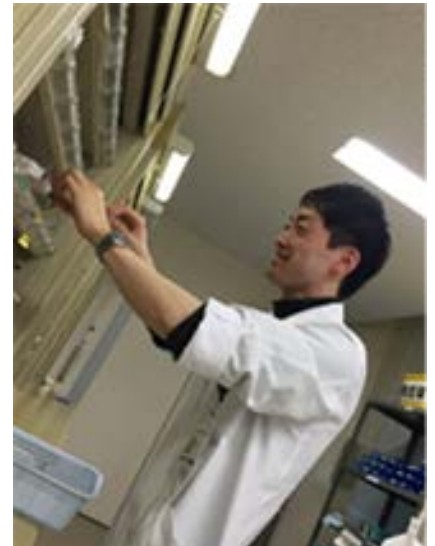
兵庫県立光風病院

当院は精神科救急医療センター、アルコール依存症専門病棟等、児童・思春期センターを有し、薬物関連障害、触法・難治症例への治療や社会復帰支援など、各病棟それぞれ特色を持って精神科医療の専門医療を提供しています。

私は、去年4月に入職したばかりの薬剤師1年生です。現在の業務内容としては、調剤だけでなく病棟業務の他、最近では医薬品マスタメンテナンス業務にも携わっています。

◇調剤業務

調剤業務といっても調剤だけではなく、調剤薬鑑査、納品された医薬品の検品、医師への疑義照会など様々な内容があります。当院の薬剤部は人数が少ないですが、その分早期に様々な業務を担当できるので、非常にやりがいのある職場環境です。しかし当院は精神科単科病院なので、他分野の自己学習が必要になります。私も日々自己学習を頑張っているところです！



◇病棟業務

私が担当しているアルコール依存症専門病棟では、入院治療を ARP(アルコール依存症・リハビリテーション・プログラム)を中心に進めています。ARP では薬剤師以外にも医師、看護師、精神保健福祉士、管理栄養士、臨床心理士など多職種が連携してアルコール依存症患者の治療にあたっています。

薬剤師業務としては、薬剤管理指導業務だけでなく病棟カンファレンスやアルコール依存症患者向けの薬物教室も実施しています。

精神科病院の患者さんは、生活背景や性格などが治療を行うにあたって非常に重要となるので、医療従事者同士での情報共有や患者さんとの日々のコミュニケーションが必要不可欠です。最初は思うように上手く意思疎通が取れませんでした。徐々に打ち解けて会話ができるようになってきました。

今後も精神科薬物療法の適正化に向けて日々努力していきたいと思っております。

兵庫県職員としての薬剤師の仕事は、病院業務だけでなく県庁や健康福祉事務所、警察など多岐にわたっています。

学生時代に学んだ知識を幅広く活かすことができる職場環境だと思います。

皆さんも県職員の一員となり、私たちと一緒に働いてみませんか！！